

第2章 優れた自然環境の保全と活用の取組

1 山陰海岸ジオパークの世界ジオパークネットワークへの加盟認定

「ジオパーク」とは、ヨーロッパで始まった地質や地形を見どころとする一種の自然公園で、貴重で美しい地質や地形を含めた自然遺産を保全するとともに、**ジオツーリズム***を通じて地球科学の普及や環境教育などを行い、さらにこれらの遺産を観光資源として活用して地域社会の活性化を目指す取組です。2004年にはユネスコの支援で世界ジオパークネットワーク（GGN）が設立され、2010年10月末現在、ヨーロッパと中国を中心に25カ国、77地域がGGNに加盟しています。

GGNへの加盟は、各国の審査機関において「国内ジオパーク」として認定され、さらにGGN加盟の推薦を受けることが必要です。我が国においては、2008年5月に国内審査機関として「日本ジオパーク委員会」が設立され、2008年12月に山陰海岸を含む7地域が「日本ジオパーク」に認定されました。また、2009年8月には、日本ジオパーク委員会から推薦を受けた洞爺湖有珠山、糸魚川、島原半島の3地域がGGNへの加盟が認められました。

山陰海岸地域は、2009年10月にGGN加盟申請候補に選定され、2010年8月に世界ジオパーク委員会による現地審査を受け、同年10月に世界ジオパークネットワークに認定されたところです。

①山陰海岸ジオパークのエリア

山陰海岸国立公園を中心とする京都府京丹後市の経ヶ岬から鳥取県鳥取市の湖山池西端を含めた白兔海岸までは、日本列島がアジア大陸の一部であった時代の岩石から、今日に至るまでの経過が確認できる貴重な海岸です。これら地質遺産が連続する京都府（京丹後市）、兵庫県（豊岡市・香美町・新温泉町）、鳥取県（岩美町・鳥取市）が、山陰海岸ジオパークエリアとなっています。

図1-2 山陰海岸ジオパークのエリア



②山陰海岸の世界ジオパークネットワーク加盟に向けた取組経過

- 19年7月16日 山陰海岸ジオパーク推進協議会設立
- 20年12月8日 日本ジオパークに認定
- 21年3月20日 山陰海岸の世界ジオパークネットワーク加盟をめざす三府県議会議員の会設立
- 21年10月28日 GGN加盟申請候補に選定
- 21年12月1日 GGNに加盟申請
- 22年8月1日
～4日 世界ジオパーク委員会による現地審査
- 22年10月4日 GGNへ加盟認定

<山陰海岸ジオパーク推進協議会（山陰海岸ジオパーク推進組織）の概要[23年1月1日現在]>

- 会 長 豊岡市長
- 顧 問 京都府知事、兵庫県知事、鳥取県知事
- 副 会 長 鳥取市長、京丹後市長、香美町長、新温泉町長、岩美町長
- 幹 事 長 兵庫県但馬県民局長
- 事務局 長 兵庫県但馬県民局県民室観光・企業誘致参事
- 加盟団体 京都府、兵庫県、鳥取県、京丹後市、豊岡市、香美町、新温泉町、岩美町、鳥取市、

関係府県及び市町の観光団体、商工団体、漁協、山陰海岸を世界の公園にする会、財団法人玄武洞ミュージアム、遊覧会社など、計36団体
 組織 協議会運営委員会の下に、学術部会、ツーリズム部会、教育部会、地域連携部会を設置
 学術顧問 三田村宗樹・日本地質学会近畿支部幹事（学術部会長）ほか
 事務局 兵庫県但馬県民局県民室ジオパーク課内

③山陰海岸ジオパークの目標

地域住民、行政、民間企業が協働して、山陰海岸の優れた地質遺産を保全するとともに、地域の歴史文化資源とともにそれらを活用して特徴的で魅力的なジオツーリズムを展開することで、自然環境の保全、教育の振興、広域観光の振興など持続可能な地域社会の発展を目指します。

<テーマ>

「日本海形成に伴う多様な地形・地質・風土と人々の暮らし」

<山陰海岸ジオパークの特徴>

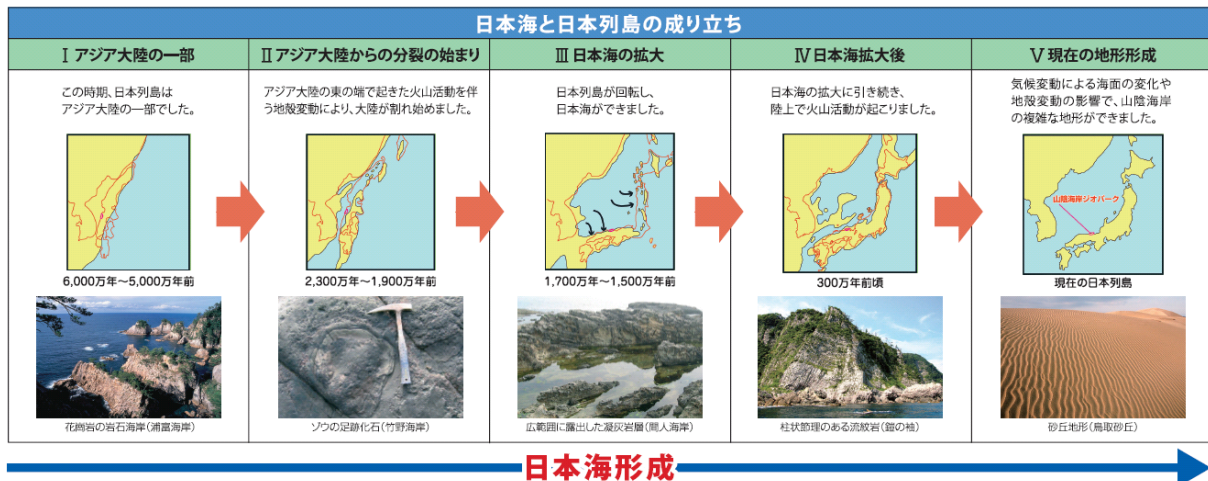
- 日本海の形成にかかわる地質の多様性
- 日本海沿岸の海岸地形の多様性（岩石海岸と砂浜海岸）
- 地球科学史上貴重な発見（松山逆磁極期の発見）
- 火成活動の影響を受けた豊富な温泉資源
- 地形・地質の中で生じた動植物の多様性
- 多様な自然を背景とした地域の歴史・文化・暮らし

④山陰海岸ジオパークのジオテーマ

※Ma=百万年前

- ジオテーマⅠ：日本海形成前の大陸の時代（白亜紀～古第三紀、75～50Ma）
 ジオテーマⅡ：日本海形成へ向けた前駆的内陸盆地と安山岩質マグマ活動の時代（前期中新世、22～17Ma）
 ジオテーマⅢ：日本海形成に至る堆積盆地と流紋岩質マグマ活動の時代（中期中新世、17～11Ma）
 ジオテーマⅣ：日本海成立後に引き続き火山活動の時代（鮮新世、4～2Ma）
 ジオテーマⅤ：現在の地形形成と第四紀火山の時代（第四紀、2Ma～現在）

図1-3 日本海と日本列島の成り立ち



⑤山陰海岸ジオパークの主要プロジェクト

(1) 保護と保全に関するプロジェクト

地域住民が主体となって地質遺産の保護・保全を進めていく管理計画を策定し、それに基づき地形・地質資源や貴重種の保護・保全に努めるとともに、周辺の自然環境の保全やクリーン作戦等により環境創造活動の積極的な展開を図っていきます。

(2) 教育・調査研究に関するプロジェクト

ジオサイト等の地域資源を活用した体験学習プログラム、教材の開発を進めます。また、計画的・体系的な調査研究活動の展開を図り、その成果をジオパーク活動に反映させていきます。

(3) ジオツーリズムに関するプロジェクト

風光明媚な地形や地質遺産と他の^びツーリズム資源や体験プログラムを有機的に組み合わせながら、テーマ性、ストーリー性を持った魅力あるルート開発や商品開発等を進めていきます。また、ジオサイトを活用するソフト開発を進め、ジオツアーを連携させることで、地域の魅力の向上を図っていきます。

(4) 産業振興に関するプロジェクト

地域住民や事業者と行政が一体となってジオパーク活動と連携した産業振興を積極的に展開していきます。特に、農林水産業や地場産業など異業種の交流・協力により産業振興を図るモデル事業やマーケティング活動などを展開していきます。

(5) 住民参画

ジオパーク活動の事業化にあたっては、住民団体・グループ等との連携のもと、地域住民の幅広い参画を得て展開し、ジオパーク活動を主体的に展開する過程で、ふるさと意識の醸成や、住民主体の地域づくりの土壌の培養、持続可能な社会の形成につなげていきます。

図 1-4 認定を祝福する京丹後市関係者



図 1-5 立岩<ジオサイト>

